

日時	平成29年7月5日(水) 15:30~16:45				
部会名	鑑賞部会	主任	曳田 裕子		
参加数	12名	司会	山田 万里	記録	高橋 諒子

鑑賞部会テーマ

音楽のよさや面白さ、美しさを自ら感じ取り、聴き味わう鑑賞活動

研究仮説

子どもの実態や教材分析をもとに学習展開を工夫することにより、子ども自らが音楽の面白さ、美しさを感じ取り、聴く喜びを感じ取ることができる。

(研究内容)

○基礎研究

- ・6月の研修をもとにした実践提案 提案：曳田 裕子先生(白幡小)

1 提案者(曳田先生)より

<前時 器楽(1時間)>

「威風堂々1番」について知り、み力をみつけるために、主な旋律をソプラノリコーダーで演奏しよう
なぜ今でも聴かれ、親しまれているのかという、「曲そのもののよさや価値」を導入でとりあげた。

- ・サッカーなどの応援で歌われている→ 気分を盛り上げるからではないか

- ・どんな曲なのか予想

曲に親しみをもち、聴き深めるために

- ・鑑賞の学習の前に、リコーダーで演奏

<本時 鑑賞(1時間)>

「威風堂々1番」を聴き、曲のみ力をさぐる

- ・旋律の対比・・・ 比較して聴く効果を感じた。
- ・スコアの提示・・・ 調号の違いから、転調に気付いた。

※「調」についての説明、今回は音の高さが違う程度にとどめた。

- ・構造をとらえながらも、想像したり感じ取ったりしたことをもっと豊かにしたい。
- ・一人ひとりの聴き方の変化をとらえる手立て

2 9月実践提案(今回の提案を受けて)の練り直し

- ・聴きたいと思わせる導入の工夫(曲そのもののよさや価値)
- ・時間配分、指導計画のこと 2時間計画ではどうか
- ・45分で「聴き浸る」までになるのか
- ・1時間の中で何回も聴くために→部分的に 視点を与えて など
- ・「威風堂々」の曲のよさは、曲の構造や旋律の特徴、音の重なりなど音楽の特徴にあるのでは。

次回 提案者(塚本先生より)

- ・子どもの実態について アイネ クライネ ナハト ムジークの学習の様子
- ・「感じ取ったことは何だったのか」というところから、「詳しく聴いてみたい、確かめたい」という流れにしたい
- ・聴き深めるについて 知覚優位で聴いてしまうこともある。先に感じ取ったことを出させるのはどうか

3 次回の提案 学習の流れ (案)

指導計画は 2時間扱いにする。→聴く 書く 聴き深める 聴き浸る 時間の確保のため
ただし、器楽として 主旋律をリコーダーで演奏する時間をもつ。

第1時

- ・初めて聴いた感想 ※
- ・A Bの旋律 曲の構造をとらえる
- ・感じ取ったこと 聴き取ったこと 出す

第2時

- ・曲の分析
 - A Bの旋律 対比
 - B 繰り返すごとに変化する 音の重なり 楽器の重なり 音色 転調 など
- ・聴く 聴き深める時間の確保
- ・自分の聴き方の振り返り ※
 - 音楽の特徴への気付き 感じ取りについて (自分はどんな力をつけたのか)
 - 音楽に対しての気持ちや態度の変化について

※一人ひとりの聴き方の変化をとらえる手立てとして

○12月 研究授業に向けて (山下先生 下野庭小)

教材 「待ちぼうけ」1時間扱い

児童の実態から考えられる学習展開

- ・ペア学習 話す活動
- ・ワークシート
- ・実際に歌う
- ・DVDを視聴する。

○音鑑の研修会について